



柳島フィールドスタディー

柳島の町や歴史を多くの人に知ってもらいたいと、町内の施設などを徒歩で巡り、その由来などを学ぶ「柳島フィールドスタディー」。地元の保育所や小学校をはじめ町内外からたくさんの方が訪れる教材となり人権問題などの学びの場となっている。

この取組は、平成21年から柳島隣保館が行っていて、年間約10回開催している。説明役を務める同館館長の笹川忠博さんは、「先人たちが町を良くしよう」と取り組んだ運動や知恵、その裏にある熱い思いを少しでも感じてほしい」と話す。

フィールドスタディーは、中野島総合センターを出発して町内12カ所を回る。柳島教育集会所跡地では、昭和48年から行われている「学習会」の説明があった。子どもたちに自分の夢や希望を実現してほしいと学習を支援し、現在も「人権ふれあい子ども会」として受け継がれている。

昔、町は住宅が密集していて、火事が起こると隣接する住宅に延焼した。明治42年に自ら消防組を設立し、お金を出し



現地でもわかりやすく解説



当時の柳島教育集会所



おっぱしょ地蔵祭りのようす



民話を紙芝居で伝承

合って手押しポンプを購入した。町の延焼を防いだほか、他の地域で火事が起こった時も出動した。また、昭和30年代には、井戸水が枯れることがあり、子や孫の代になっても安心して水が飲めるようにと約10年の歳月をかけて町の専用水道施設を作った。

参加者は、町の歴史や人々の営みに触れて、人権尊重の大切さや人と人の絆の大切さを胸に刻み込んでいた。

フィールドスタディーの広がりの中で、町の民話「おっぱしょ地蔵」を伝承しているという取組が、保存会により復活したのもうれしい出来事。笹川さんは、「先人が残した業績を称え伝えていくことは、自分たちの住む町を愛すること。この取組をすべての人の人権を尊重する町づくりにつなげていきたい」と熱く語った。

「柳島フィールドスタディー」は、柳島隣保館（☎22-3260）で無料で行っています。